

コラム「ブラジルの素顔」

今回の大統領のインド訪問は大変に興味深いです！
少し真面目なテーマで書かせて頂こうと思います

2020年3月

三井住友銀行 加藤 巖

【ブラジルとインド】 大袈裟かもしれませんが、大国2か国の動きで、世界の勢力図が少し変わるかも……

ボルソナーロ大統領が1月24日から1月27日にかけてインドを訪問しましたが、今回のこの動きに大いに注目したいと思います。

両国はBRICS会議とかG-20の場、つまり公式な国際会議では度々並ぶことはあっても、従来から政治的にも経済的にも、どちらかという希薄な関係にあったと言えます。両国ともに多くの国民を抱え、広大な国土を有するという点で同じ境遇であり、実は産業面でも似ている部分が多いことから、もっと早くに緊密になるべき国だったのでは、と思います。

	ブラジル		インド	
人口（2018年）	2.1億人	世界5位	13.5億人	世界2位
国土	851.2万 km ²	世界5位	328.7万 km ²	世界8位

（出所：世銀 IDA）

(1) 歴史/両国関係

現地友人たちに尋ねたところ、近年のブラジルでは若者を中心にヨガが流行っていることから、学生時代や大人になって、ヨガをきっかけにインドのことを詳しく学ぶことはあるようですが、仮説を立てていた通りに子供の頃にはインドのことを学ぶ、所謂勉強を受ける機会がなかったということでした。確かに今まで多くのブラジルに関連するビジネス案件、文化案件等の事象に関わってきていますが、インドが目立ったことはありませんでした。身近なところで考えますと、ブラジルにはインド料理店が多く存在しないことで、我々のような異国人もブラジルにはインドの知識・文化等があまり浸透していないと感じることができると思います。

例えば日本の場合、少なくとも義務教育課程でアメリカを主軸にロシアのこと、中国のこと等を勉強して知識を得るようカリキュラムが組まれています。当然、この教育過程での内容が後の大人になった時の国民感情やそこから湧き上がる文化、商売方法等にも大きく影響を与えるということは皆さんも体感されて、ご存じのところでは。

因みに両国の関係をブラジル外務省の HP で拾ってみたのですが、両国の関係はインドが独立をした 1947 年 8 月の翌 1948 年に国交関係樹立と、そこそこ歴史があるのですが、両国独自の政治・経済運営が困難な時期があったということも含めても、要人往来はそれほど活発ではなかったのではないのでしょうか。

	ブラジル訪問	インド訪問
1954	Radhakrishnan副大統領	
1968	I.P.Gandhi 首相	
1992	N.Rao首相	
1996		F.H.Cardos大統領
1998	K.R. Narayanan大統領	
2004		Lula大統領
2006	M.Singh首相	
2007		Lula大統領
2008	P.Patil大統領	Lula大統領
2010	M.Singh首相	
2012	M.Singh首相	Dilma大統領
2014	N.Modi首相	
2016		Temer大統領
2019	N.Modi首相	
2020		Bolsonaro大統領

(出所:ブラジル外務省 HP 他から筆者作成)

(2)2020 年の訪問～今回の成果

報道によると今回ボルソナロ大統領はインド訪問中にインフラ、サイバー・セキュリティ、バイオ・エネルギー、文化、観光等の 15 項目にわたる二国間協定に署名をしたようです。なかでも投資促進協定は最も重要なテーマとして位置付け、両国は二重課税を避けるための租税条約の改正を目指した覚書にも署名しています。

またもうひとつの重要なテーマとしては IT 分野です。インドは世界でも多くのテクノロジー・スタートアップを抱える IT 大国であり、ビッグデータの分析や AI (人工知能)、インターネット、サイバー・セキュリティ等の分野で国家規模の研究開発を推進しています。海外からの投資優遇措置としても、インフラ開発分野等と併せて、化学・産業に対する研究開発に対して多くの特別措置を採用しています。2016 年には「スタートアップ・インド」と称するベンチャー企業育成構想を発表して、ベンチャー企業の起業を後押しするとともに、経済成長や雇用 確保につなげる方針を示していて、多くのユニコーンが誕生して成果が出ています。他方、ブラジルも実はスタートアップ企業は多く存在して、勿論ユニコーンも誕生しています。この分野においても両国は関係性を高めたいという意向がマッチしたものと思われ、IT 分野の発展を目指した覚書にも署名がなされたようです。

更にはバイオ・エネルギー分野です。ご存じのようにすでにブラジルではバイオ混合率が 0~100%まで対応できる自動車エンジンが市場の略 100%ですが、インドは 2030 年までに自動車用燃料のガソリンに対するバイオ混合率をまずは 20%に引き上げる目標を掲げています。インドは世界的な砂糖生産及び輸出国であることからブラジルと競合はするものの、サトウキビ由来のエタノール生産についてはブラジルのバイオ燃料技術がかなり進んでいることからその経験に学びたいとの意向を示しているものと思われ。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。

(3)未来/両国の将来関係は？

今回のブラジル大統領によるインド訪問から読み取れるのは、わかりやすいところでは、両国間における貿易拡大の予想です。両首脳のコメントによると、両国は貿易開放を約束し、両国間の貿易量(輸出入の合計)を2022年までに現在の70億米ドル規模から150億米ドルへ増やそうとしています。

アルゼンチンのフェルナンデス政権がブラジル通商政策と少々異なる方向性を執ろうとしているので、メルコスール(南米南部共同市場)で動くのは簡単ではないでしょうが、インドとの関係を睨んでメルコスールの共通対外関税を一部削減して、南米圏を通じて多国間協定を推進しようとするかもしれません。

そして何よりもブラジルとインドが親密になることで、アジア地区におけるパワーバランス上も大いに意味があるものと思いますし、ややもすれば「暴れん坊」とまで称されるボルソナーロ大統領の価値観が日本やアメリカ等と近いものだったという安心感にもつながったインド訪問だったと考えるのが普通であり、今回限りの思いつき外交として、このまま尻つぼみにならないで、ブラジル外務省が次の一手を確実に進めることを期待したいと思います。

2020年も引き続き南米事情に対して、いろいろな切り口で発信して参りますので、お気軽にご意見、ご要望等のお声をお寄せください。

加藤 巖(かとう いわお)

1987年上智大学外国語学部ポルトガル語学科卒業。同年住友銀行(現三井住友銀行)入行。
89-90年ブラジル業務研修生(Minas Gerais 州立カトリック大学聴講生)、東京営業部、
国際審査部、JCIF 国際金融情報センター出向、ブラジル住友銀行(現ブラジル三井住友銀行)、
グローバル・アドバイザー一部等を経て、2016年9月からブラジルにて大小のM&Aを中心に従事。
2019年4月末に再びグローバル・アドバイザー一部に帰任、現職。

「中南米における自国通貨のドル化の背景とその実効性/アルゼンチン」(JCIF/大蔵省委託調査)

「変動する世界の金融・資本市場(アルゼンチン)」(金融財政事情研究会)

「日本企業がブラジルと上手に付き合うために必要なこと」(日本ブラジル中央協会)

「新ブラジル事典/第4章:金融業」(ブラジル日本商工会議所編)、等の執筆多数。

経済産業省 大臣諮問勉強会「ブラジル勉強会」へ招聘され、鶏肉、エタノール等について解説。
「特集ブラジル経済と不動産市場の行方」(AREAS 不動産証券化ジャーナル/2016年31号)対談、
日本機械輸出組合主催「ブラジル進出支援セミナー」、播磨国際協議会主催「ブラジル経済情勢」、
上田市3商工団体共催「海外展開セミナー」セミナー講師等の講演多数。